

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	14516.27	98.74
N Y ダウ	16,408.54	-16.31
D A X (独)	9,409.71	91.89
FTSE100 (英)	6,625.25	41.08
CAC40 (仏)	4,431.81	26.15

<外国為替>※

ドル円	102.40 円	0.01 円
ユーロドル	1.3819 ドル	0.00 ドル

<長期金利>※

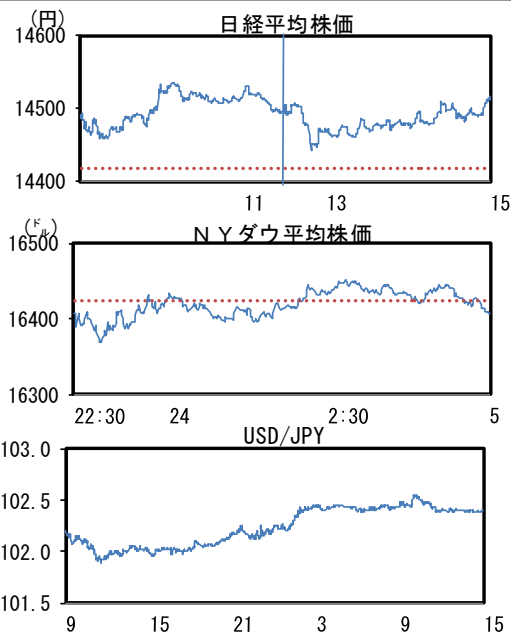
日本	0.604 %	-0.00 %
米国	2.722 %	0.09 %
英国	2.668 %	0.03 %
ドイツ	1.515 %	0.03 %
フランス	1.987 %	0.04 %
イタリア	3.121 %	0.02 %
スペイン	3.085 %	0.02 %

<商品>

N Y 原油	104.30 ドル	0.54 ドル
N Y 金	1293.40 ドル	-9.70 ドル

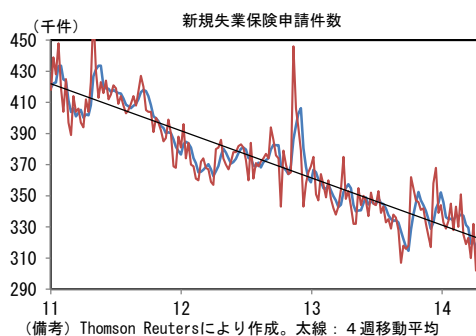
※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



【海外株式市場・経済指標他】 ～フリー指数は大幅改善～

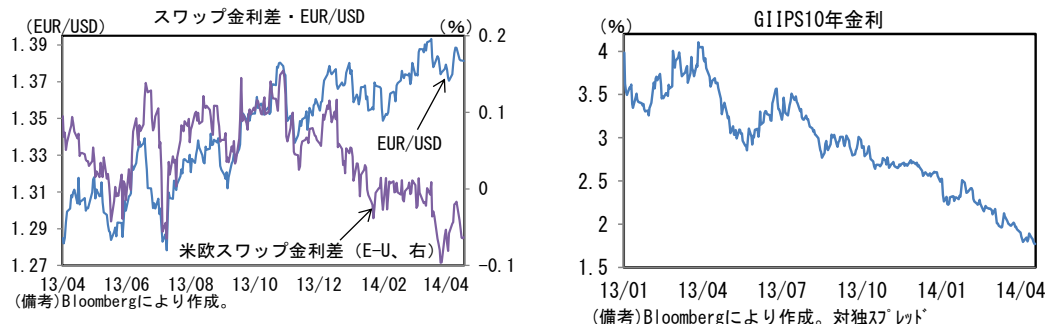
- ・N Y ダウ平均株価は前日比▲16.31ドルの16408.54ドルで取引終了。
- ・新規失業保険申請件数は30.4万件と前週改定値(30.2万件)から微増に留まり、市場予想(31.5万件)より強い内容となった。4週移動平均は31.20万件と前週時点(31.68万件)から一段と低下し、2007年10月以来の水準に到達。申請件数は寒波から抜けた3月以降に劇的なペースで減少しており、労働市場の改善ペースが一段と加速している可能性を示唆した。なお、今回発表分は4月雇用統計の調査週と重なる。
- ・フィラデルフィア連銀製造業景況指数は+16.6と市場予想(+10.0)大幅に上回り、前月(+9.0)から改善。ISM換算でも52.9と前月(50.4)から強く伸びた。内訳は出荷(+5.7→+22.7)、新規受注(+5.7→+14.8)が大きく伸びた一方、入荷遅延(▲2.7→▲14.3)が下押し寄与。雇用(+1.7→+6.9)と週平均労働時間(+3.1→+5.0)も強く、ペントアップデマンドへの対応が本格化している様子が窺える。N Y 連銀指数(+5.6→+1.3)は反落したが、両指数を合成するとISM指数は小幅改善となる見込み。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【外国為替相場・債券市場】～欧州：信用緩和一段と～

- ・前日のG10通貨は米国時間入り後からUSDの堅調さが目立った。USDは米金融大手決算を受けて上昇を開始すると、その後フィリー指数の予想上振れに反応して主要通貨全般に買われた。USD/JPYは102半ばに上昇、EUR/USDは米欧2年債金利差の拡大もあり1.38近傍まで下落。
- ・米10年金利は+9.3bpの2.722%。米指標・決算を受けて急上昇。ただ、連休前で、かつ、来週に5・7年債入札を控えていることもあり、単に買いが手控えられた可能性は否定できない。欧州債市場は、米債下落に追随してコア・セミアが軟調。独10年金利は+3.0bpの1.515%となった。一方、GIIPS金利は概ね堅調で対独スプレッドは縮小。

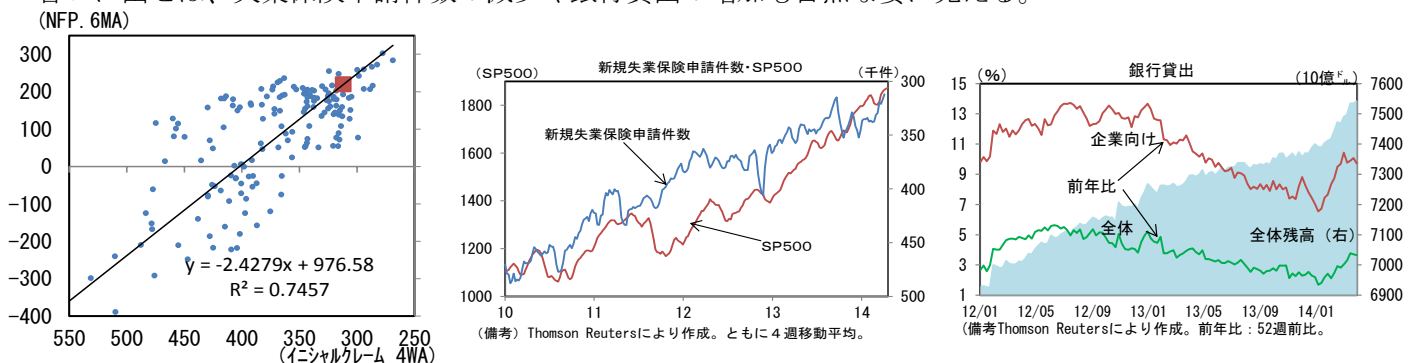


【国内株式市場・経済指標他】～中国PMIを無事に通過すること～

- ・日経平均株価は前日比+98.74円の14516.27円で取引終了。
- ・来週の日本株は底堅い展開が予想される。国内要因としてGPIFに対する期待が高まるなか、米指標の改善を確認しつつ一歩ずつ前進するだろう。ウクライナ情勢を巡る4者協議で前向きな合意がなされたことも引き続きポジティブに作用する見込みだ。ただ、心配なのは中国のPMI。市場予想は48.3と前月(48.0)からの改善を見込んでいるが、これに届かないようだリスクオフが再燃しそうで注意が必要。

【注目点】～ゴールデンなゴールデン・ウィークを～

- ・新規失業保険申請件数はやや地味な印象を受けるが、雇用統計や米国株との相関の強さに鑑みると、軽視できる統計ではない。特に今回発表分の新規失業保険申請件数は4月雇用統計(5/2発表)の調査週と重なっており、月のうちで最も重要だ。前述のとおり、新規失業保険申請件数は30.4万件と著しい減少傾向にある。4週移動平均は、31.20万人と3月時点(32.95万人)から▲5.3%減少し、寒波の逆風が過ぎ去った後の労働市場が一段と改善ペースを速めている可能性が示唆された。従来の関係に基づく、新規失業保険申請件数の31.20万件に対応するNFP変化のトレンドは22万人程度である(ちなみに、12月NFPは8.4万人に沈んだが、この時期の新規失業保険申請件数は顕著に増加していた。上図で確認されたい)。
- ・また、企業の積極姿勢の現われとして銀行貸出の増加も注目される。政策不透明感が後退するなか、昨年来の金利上昇を乗り越え、銀行貸出は年明けから持ち直しが顕著になっている。なかでも企業向け貸出の増加が目立つことは、企業の前向きな資金需要が復調しつつあることを示唆している。昨日も当レポートで指摘したとおり、設備稼働率が79.2%と不足経済への転換の目安とされる80に接近していることを引き合いに出せば、失業保険申請件数の減少や銀行貸出の増加も自然な姿に見える。



(備考) Bloombergより作成。千人。2000-

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。